

# 若人の農都交流による地域再生事業

## 概要

当町は、過疎化が進み高齢化率も31.1%、限界集落が存在し集落の消滅が危惧されている現状である。第一次産業を生業とし地域資源を活かした、共生し自立するまちづくりを進めている。産業と賑わいの再生を求めH24年度から農都交流事業を推進し、都市型企业や大学などとの交流からそれぞれの地域や組織が抱える課題解決に向け協働の取り組みを行おうと提唱し、企業の人材研修などに農村の社会や文化、農作業体験を提供してきた。

都市型企业等の人材育成の地として、農山村地域を活かすことができる活動の基礎を固め、受け入れのための体制強化と地域内での二次交通の確保、人をつなぐための仕組みづくりに加え、全町で交流が進められるよう事業を展開した。

## 山形県飯豊町



首都圏の拠点



在日外国人も参加



里山に若人

## 事業の内容

### 事業の内容

- ①農都交流推進研究会を設立し、人材の育成と交流拡大のためのシステムの検討を行った。
- ②交流拡大の基盤整備として、二次交通の確保検討、プログラム開発、交流拡大のためのモニターツアーの実施。
- ③情報発信のために報告会などの開催と研修などの開催。

総事業費 10.204百万円

### ポイント

- 人材の育成とシステムの構築検討、活動の拠点づくりとして都内の高円寺商店街との連携から拠点づくりを進めた。
- 交流拡大のため、二次交通対策として既存のデマンド交通を含め移動手段の検討を行うと共に、外国人向けのプログラム開発のため在日ブラジル人を対象としたモニターツアーを開催した。
- 若人と農村をつなぐ対策として、「J-CAT(飯豊応援隊の学生)」の活動と連携し、都内での拠点づくり、応援大使証の交付などにより連携の仕組みづくりを行った。

## 事業の成果

- ①農都交流推進研究会を設立し、山形大学をはじめとした関係者との連携から人材の育成の場を構築することができた。
- ②二次交通、地域通貨の試行実証により、体制づくりに向けた礎を得れた。
- ③若人で飯豊町(農山村)を支援するチームを構築することができた。
- ④報告会等により情報を発信することができた。
- ⑤都内の高円寺商店街との連携が構築され、人から物流まで多様な交流が推進される基礎を造れた。
- ⑥企業・大学に加え、在日外国人との交流を進めることができた。
- ⑦国の関係機関により農都交流の推進チームが構築され、連携を図った。